

2011年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度は、北極域で負偏差、ユーラシア大陸の北部は正偏差、南部は負偏差が分布した。太平洋中部から北米にかけては、正偏差と負偏差が交互に並ぶ波列パターンが見られた。ユーラシア大陸では、ジェット気流の分流が明瞭だった。アイスランド低気圧とアリューシャン低気圧はともに平年より強かった。シベリア高気圧は平年より弱く、太平洋高気圧は平年より強かった。

熱帯の対流活動は、インド洋西部の赤道域からアラビア海にかけて、カリブ海付近、南米北部で平年より活発、太平洋西部から中部で不活発だった。振幅の大きい赤道季節内振動 (MJO) に伴う対流活発な位相が、太平洋東部からインド洋西部を東進した。インド洋から太平洋赤道域の東西循環は先月までの特徴から大きく変化し、インド洋東部から太平洋西部は上層で西風偏差、下層で東風偏差、太平洋中部では平年に近い状態となった。南方振動指数は+1.0だった。

世界の天候

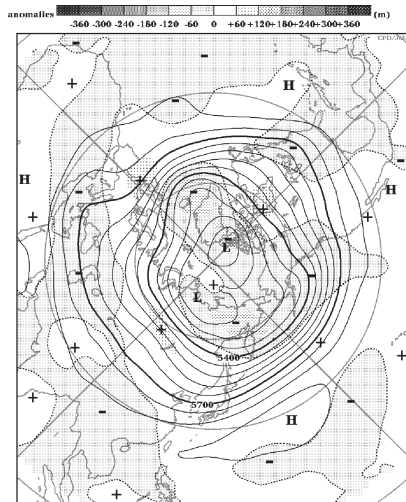
2011年10月の世界の月平均気温平年差は+0.11°Cであった。10月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.61°C/100年である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- シベリア南部では、異常高温となった。
- カナダ南東部及びその周辺では、異常高温となった。
- 中米南部では、熱帯低気圧による大雨、洪水、地滑りで、約70名が死亡した、と伝えられた (国連人道問題調整事務所)。

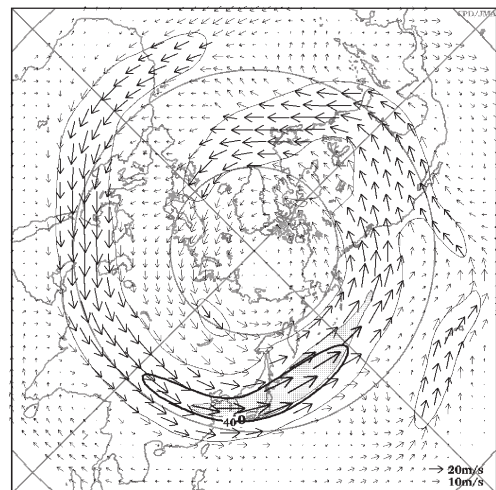
(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

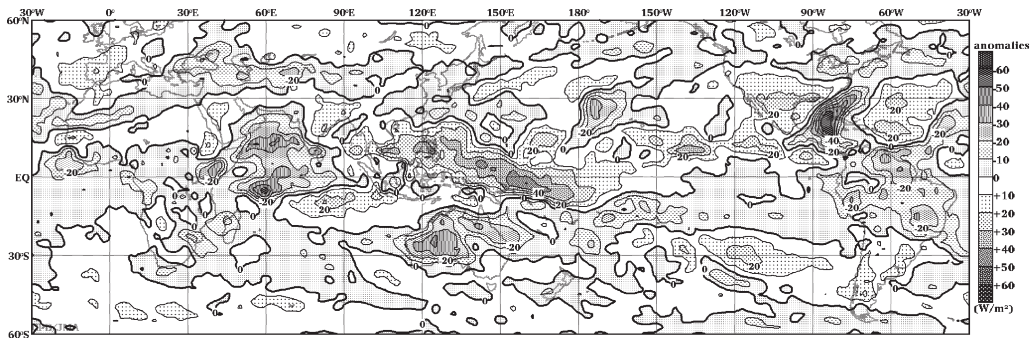
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



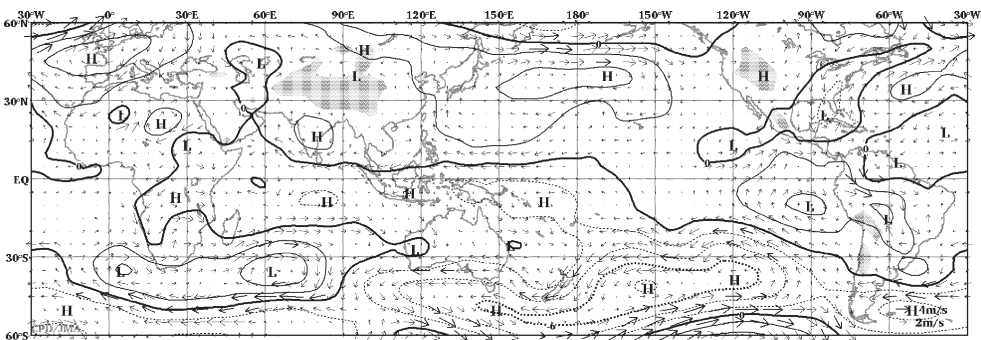
2011年10月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。



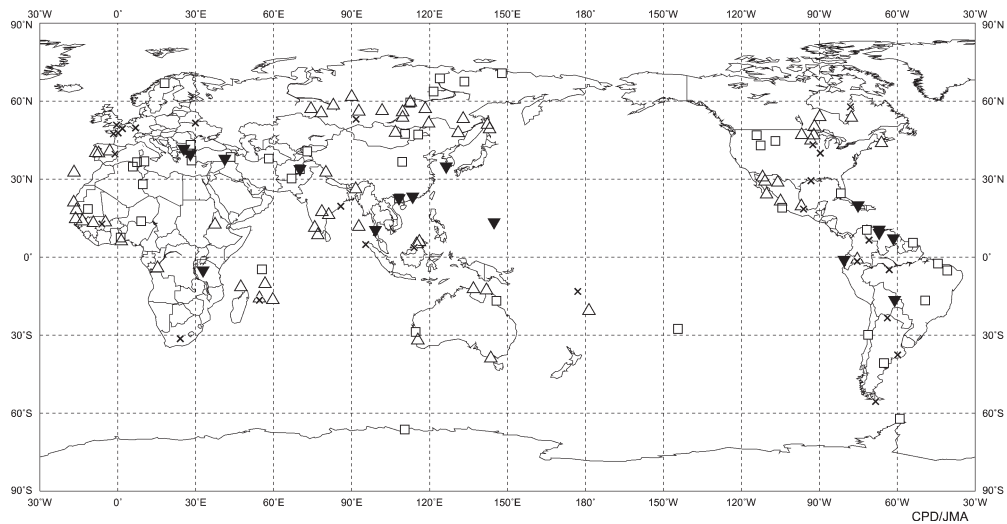
2011年10月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s。陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



2011年10月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2011年10月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2011年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。